

## 宗内寺院紹介 57

群馬教区北前橋部

## 青柳山 龍藏寺



①



②



③

①龍藏寺本堂 ②東国巡錫の祖師大師様 ③大師堂

群馬教区北前橋部  
青柳山 龍藏寺住 所／〒371-0057 群馬県前橋市龍藏寺町甲68  
電話番号／027-231-8306

青柳山龍藏寺は五十代桓武天皇の御代、即ち延暦二年（七八三）日光をお開きになった勝道上人によって、現在の青柳町に天皇の命でお堂が建てられたのが始まりといわれている。

当時、満願寺と呼んでいたが、火災で焼失。其の後、貞治・応安の頃に笠間道玄入道が、厩橋築城の時に城の鬼門除けとして現在地に「龍藏寺」の地名を与え、龍藏寺の堂宇を改めて建立し満願寺の寺名は日光へ移したと云われている。

現在の境内地は、その昔は利根川が流れており、俗に「龍ヶ淵」と呼んでいたそうである。これは龍がひそむ程の深い場所という意味である。その後、利根川の流束は西に方向を変えた為に長く原野であったが、開拓してお堂を建て、地名により龍藏寺と名付け、天台宗では開東八箇檀林の一つであり、前橋城主代々の祈願寺であった。その当時の城主であった酒井雅楽頭父子は、あつく当山の元三大師様を信仰し、寺領五十石を賜った。その後寛保二年（一七四二）に再びお堂が焼失し延享三年（一七四六）に酒井公が再建されたと云われている。

当山に安置されている元三大師様は、古くから厄除のお大師様として、多くの人たちの尊信をあつめている。現在でもお大師様の命日である正月三日は、縁日として、二日の夜半から大勢の善男善女の参詣者が参道をうめつくし賑わっている。

このお大師様が、厄除のお大師様として大勢の人々から尊信をあつめられたのは、天明三年浅間山の大噴火の際に利根川の堤防工事をしていた人夫が災害の厄難にさらされた時、どこからともなく黒衣の高僧が現れ、一心に読経をして、人夫を救済して大事に至らず、未然に事故を防ぎ得たという。この時、近くの信者達は不思議に思い、あの高僧は恐らく大師様に違いない、と申して、当時の寺の住持にお大師様の厨子の開扉を願い出て開いて見ると、東向きに安置しておいた尊像は西を向き全身に汗をかき全く生きておいでのようにあったそうである。それ以来厄除と言われるようになり、厄除大師の靈験はいよいよ表れ、信者の尊信も益々深まり、信仰の源泉となっている。

このような説話にも語られるお大師様の人間性を住職檀信徒が自らの指針として、共に法灯を護持されている。